

マルハン、2度目の「くるみん」

妊娠・育児中の休業制度拡充

パチンコホール企業大手のマルハン(京都市上京区)は6月23日、子育てサポート企業として、厚生労働省より「くるみんマーク」の認定を受けた旨、発表した。2013年の取得に続き2度目となる。

「くるみんマーク」とは、厚生労働省が子育てサポート企業に認定した企業に付与するマーク。認定を複数回取得する企業が増加している背景から、取得回数が増えるよう、取得回数に応じて星が増えていく「新くるみんマーク」もできた。

同社では、次世代育成支援対

策推進法に基づき、一度目の認定以降、13年4月1日から16年3月31日の3年間で「妊娠時に従業員が働き方を選択できる休業制度の拡充・導入」「育児休業取得後も継続して休むことができる休業制度の拡充・導入」「休業取得者(妊娠・出産・育児)に対して、相談窓口の案内・周知」に取り組んできた。こうした試みが評価され、今般2度目の認定に至った。

次期行動計画では、16年4月1日から19年3月31日までの3年間で「希望する労働者に対する勤務地等の限定制度の推進」

『育児等による退職者についての再雇用制度の実施』『固定的な性別役割分担意識の是正のための情報提供』に取り組んでいくという。

一方、三洋物産(名古屋市千種区)は6月27日、3代目となる「ミスワリン」に木寺莉菜さんを選んだと発表した。「ミスワリン」は、同メーカーの機種やキャンペーンに関する情報発信のほか、沖縄のサンゴ保全活動を行うイメージキャラクターとしている。同社は「ミスワリン」によるサンゴ保全活動を2011年10月から実施している。

(ニュース提供・LOGOS×娯楽産業)

遊技産業の視点 Weekly View

岸本 正一



ホールマーケティングコンサルタント
LOGOSプロジェクト上級研究員

今般のパチンコ遊技機における市場の変化は、金銭的ヘビーユーザーの存在により売り上げを維持してきたホールにとっては厳しい経営環境の変化といえる。この現実から、新機種に対してネガティブな評価を即座に下すホールもあるが、それについて筆者はもっと慎重な考察が求められるべきだと考える。

何よりこれらの機種が市場で稼働することは、今後のパチンコ市場の将来を占う上での貴重なフィールドテストといえる。たとえば、ベース値30オーバーという遊技環境がプレーヤーにどのような影響を与えるのか。具体的な遊技時間の延長や遊技回数の増加、低貸玉営業から4円パチンコへの回帰現象も想定される。これらの動向を察知するためには、新たな基準で開発されたパチンコ機の収益性能だけでなく、その効用についてあらゆる角度からの観察が求められる。

市場環境の変化を察知せず、過去の「恩恵」を当然のことと理解して、そこから一歩たりともビジネスの軸足を動かさずとすれば、どのような業種であろうとも将来は危うい。通信技術の進歩は2013年度末に日本国内のプロードバンド回線契約数を約9000万件にまで押し上げた。多くの人々においてインターネットを通じた商品の購入が可能となった現在では、小売店まで出向かなくとも簡単に商品を注文することができる。いわゆるeコマースの発達も、物販業界のビジネスモデルを大きく変化させた。当然のことながら、ここにも勝者と敗者が生まれる。

来たるべきパチンコ新時代はこれほどの劇的な変化をもたらすには至らないだろうが、少なくとも市場環境の変化をつかみ損ねていると、現在の企業業績の維持が困難になる可能性は極めて高い。

いま、ホール経営者に求められているのは、軸足を据える「概念の変化」だ。遊技機のスペックが変わるタイミングでは得てして遊技機性能の評価だけに注目が集まるが、肝心なのは、この変化がもたらすパチンコ新時代への適応方法の研究だ。そのことを軽視して、次世代につながる市場形成など実現するはずはない。

きしもと・しょういち 1963年生まれ。元SEの経験を生かし、遊技場の集客メカニズムを論理的に整理・研究する傍ら、全国のパチンコホールを対象にコンサルティングを行う。雑誌への連載やテキストの出版、セミナーでの講演なども手掛ける。オペレーション代表。

いま、ビジネスの「軸足」を動かすとき

サミーのイベントにユニバーサル参戦

ピックアップ

サミー(東京都豊島区)は6月18日、「サミーファンへ贈る、新感覚 音楽体感ライブエンタテインメント "MAX BEAT!! -Sammy Sound Fest- 第2弾」を東京都港区の恵比寿 ザ・ガーデンルームで開催。当選した300人のファンが招待された。

「MAX BEAT!!」は遊技機コンテンツの世界観・演出・高揚感を、ライブ空間を通じて体験する新感覚のファンイベントで、昨年6月に第1回となるvol.0を実施。サミーの人気タイトル映像と楽曲をクラブさながらの迫力満点の演出で楽しめるほか、歴代の人気機種から最新機種まで試打することができ、初回から絶大なファン支持を獲た。

また今回の注目は、ライバルメーカーでもあるユニバーサルエンターテインメント(東京都江東区、以下ユニバーサル)の参戦だ。サミーが遊技機化した「エウレカセブン」の映像と楽曲で盛り上がるなか、ステージ



ユニバーサルの楽曲をサミーのキャラクターが盛り上げた

の大画面にユニバーサルのロゴが登場。会場はさらにヒートアップした。

当日はVJBoo、奥家沙枝子、東條燕子、万字卍連合人気DJが出演。ユニバーサルの映像と楽曲が流れるときにはサミーのキャラクター「エイリヤン」の着ぐるみが応援に駆けつけるなど、ボーダーレスにぎわった。

ステージは、蒼天の拳の「Thrust of God」から始まり、エウレカセブン、ユニバーサル(ハナビ、サンダーV、ハーデスなど)、ツインエンジェル、コードギアス、ユニバーサル(前述のほか、ドンちゃんなど)、北斗の拳など人気機種のサウンドで構成されたセットリストが来場者を魅了。熱気に包まれるなか、イベント終了時には7月24日に東京ビッグサイト(東京都江東区)で行われるコ

ライベント「ユニバーサルカーニバル×サミーフェスティバル2016」の告知も行われた。

「ユニバーサルカーニバル」は、ユニバーサルが2012年に「ユニバーサルフェスティバル」、13年と15年に「ユニバーサルカーニバル」として単独で実施してきたファンイベント。この夏開かれる「ユニバーサルカーニバル2016」には、「MAX BEAT!!」でタッグを組んだように、今度はサミーが「サミーフェスティバル2016」として参戦。終日入場無料で開かれる同イベントでは、パチンコ・パチスロファンはもちろん、パフォーマンスの魅力で遊技未経験者の来場も促す構え。

遊技機市場のシフトを前に、そのエンターテインメント性をアピール。より多くの人々に愛される「娯楽」としての成長を目指す。

業界団体だより

全日遊連理事長「持続可能な産業像模索を」

全日本遊技業協同組合連合会(全日遊連、理事長・阿部恭久氏)は6月24日、東京都港区のシナガワグースで第25回通常総会を開催した。

任期満了に伴う役員改選では、阿部理事長はじめ5人の副理事長、および専務理事が留任。前期と同じメンバーで遊技業界の市場シフトに取り組む。

阿部理事長はいさつの冒頭、「継続して業界の健全化および活性化に向かっていくためには、同じメンバーで、同じことを担当することが望まれる」と強調。次世代につながる業の在り方を考えていくにあたり「皆の知恵を借りながら、全体として持続可能な産業像を模索しなければならない」と呼びか

けた。

来賓祝辞では、警察庁保安課の大門雅弘課長補佐が小柳誠二課長のあいさつを代読し、遊技業界のたゆまぬ健全化努力を要請。また、業界関連団体からは日本遊技関連事業協会の庄司孝輝会長、日本遊技機工業組合(日工組)の金沢全求理事長や日本電動式遊技機工業協同組合



前期と同じメンバーで遊技業界の市場シフトに取り組む

の佐野慎一理事長などが臨席。日工組の金沢理事長は、年末までのスムーズな遊技機市場シフトへの協力をお願いした。

写真にスマホをかざしてください



紙面連動アプリ「メディアトリガーplus」(無料)を起動、コンテンツ一覧から「かざす」をタップ。マークのついた写真を取り込むと、関連した情報サイトが閲覧できます。iPhone、Androidいずれもご利用可能です(一部対応しない機種があります)。

※メディアトリガーplusの注意点

- ・本サービスはGPSデータを含むアクセス情報を取得しています。
- ・携帯電話回線を使っている通信費用はご利用者の負担になります。